

指笛協会通信 No.90

まだまだ口に出るのは「暑い」この一言・・・

毎日新型コロナウイルスや熱中症と闘っていらっしゃると思います。昨年、皆様に手紙やラインで「田村大三先生との出会いと指笛への思い」を募り、協会通信を配布したかったのですが、編集している間に次の季節に移ってしまいました。

一部の方にご応募いただきましたが、思いあふれる文章をありがとうございます。提出していただいた皆様の指笛に対する熱い想いに感動し、ぜひその他の皆様にも共感したいと思い、お手紙をご紹介します。

目次

・ 田村大三先生との出会いと指笛への思い

- | | |
|-------|-------|
| 塩谷 彰宏 | 杉田 隆則 |
| 菅原 和則 | 片井 久夫 |
| 竹中 速雄 | 中澤 忍 |
| 片山 陽一 | 有賀 猛 |
| 垣花 譲二 | |

・ コンサートのお知らせ



「田村先生との出会いと指笛への思い」

青森県 塩谷 彰 宏

田村先生との出会いは私の人生をとっても豊かにしてくれました。
指笛への思いは、「感謝」です。

私は指笛が吹ける限り、死ぬまで続けていきたいと思っています。

指笛に関わる視点から私の人生を振り返ってみたいと思います。

○カッコウワルツ

テレビから、指笛で演奏される「カッコウワルツ」が流れてきました。

その音色に引き寄せられ、テレビにかじりついて聴き入ったことを今でもはっきりと覚えています。

私が小学校6年生の頃（昭和35年頃）であったと思います。

NHK テレビ（当時は白黒）の「私の秘密」という番組でした。

それが、田村大三先生の指笛を初めて聴いたときでした。

「どうやったらあんな音が出るんだろう」と思った記憶があります。



○トンビがぐるりと輪を描いた

その頃、私は近くの子どもたちが、親指と人差し指を丸くして指笛を吹いているのをまねして、ピーピーと音が出せるようになった頃でした。



そして、よく近くの山に登って一人でピー、ピーと吹いていました。

ある秋の日、美しい夕焼けの中に一羽の鷹（とび）が飛んでいました。私はその鷹に向かって指笛でピー、ピーとやりました。

すると、その鷹が私の頭の上を回り始めたんです。私は夢中

になって、ビー、ビービー、ビーと吹き続けました。そうしたら、あっちの山から、こっちの山から、ずーと向こうの山から鶯がいっぱい集まってきました。

夢中になって吹き続けました。

夕焼けのあかね雲の中にたくさんの鶯が舞い続けました。そのようなことが何回かあり、最高の時は64羽も集まりました。

○キャンプファイアー終盤の「雪山賛歌」

中学校2年の林間学校のキャンプファイヤーが終わりに近づいた頃、担任の先生が指笛で「雪山賛歌」を演奏しました。残り火を見つめながらジーンと心に響いてきました。その後、その先生にやり方を聞きました。



人差し指と、薬指をV字型にして、舌の下に入れ、舌を巻いて吹く方法でした。毎日毎日練習をしました。このフォームで2オクターブ半出るようになり、いろいろな曲を吹けるようになりました。

高校ではブラスバンド部でトランペットを担当しました。指笛も、トランペットも腹式呼吸で、息の使い方には共通点があると思いました。

○武蔵野音楽大学「トランペット夏期講座

小学校の教員になり、小学生のトランペット鼓隊を創り、活動しました。学校行事だけでなく、村のいろいろな行事に参加しました。僻地の小学校にトランペット鼓隊ができたということで、新聞に掲載されたり、テレビのニュースで放映されたりしました。

トランペットの指導力を高めるため、学校の夏休みに武蔵野音楽大学の「トランペット夏期講座」を受講しました。



授業の休憩時間に、トランペットの担当教授にお願いして、私の「指笛」を聴いてもらいました。そのとき演奏した曲は「北上夜曲」でした、

すると、私の指笛を聴いてくれたその教授が言いました。

「中野に田村大三という指笛のプロフェッショナルがいますから門をたたけばいいのではないですか」と。

早速、電話帳で調べ、中野の田村先生のご自宅を訪問しました。

そのとき、田村先生は快く迎えてくださいました。

私は、「小学校の頃、テレビで見た本物だ」と思いました。

田村先生は私のために「希望のささやき」という曲を指笛で演奏して聴かせてくださいました。

その後で、田村先生から、人差し指を鉤型に曲げて吹くやり方を教えてもらいました。

青森に戻ってから、毎日毎日人差し指をくわえてやりましたが、なかなか音が出ません。

2週間ぐらいたった頃、なかなか音が出ないので、「コノヤロー」とやったらピッと音が出たのです。

後で考えてみると、「コノヤロー」とやったとき、指の角度がちょうど音が出る角度になったのでしょ。

それから、一つの音が出たら、その音をピーーーーーー とロングトーンで出す練習を大
 繰り返し、一音一音、音を削っていきました。
 その後は順調に音が出始め、2オクターブ半まで出るようになりました。まだよくは
 田村先生と出会って、楽友会会員になり全国の仲間と連絡を取るようになりました。北
 やがて、毎年東京で実施されている「指笛音楽研究発表会」にも出演するようになりま
 した。

○海外での指笛演奏

私は自分自身で海外に行くほか、ユネスコ活動もやっているのですが、これまで約20ヶ
 国を訪れました。

中には、同じ国を何回か訪れたこともあります。特に娘がアメリカ人と結婚してサン
 フランシスコに住んでいるので、コロナ禍の前はアメリカには毎年のように行っていまし
 た。

青森県ユネスコ協会海外派遣団長としてもアメリカ、カナダ、タイ、ベトナム、中
 国、韓国などを訪問しました。



このユネスコの海外派遣の目的は2つあって、ひとつは現地のユネスコ世界遺産視察
 見学です。そして、もうひとつは 現地のユネスコ協会等の方々との国際親善交流が目的
 です。

特に海外の人達との懇親会等の場では、言語での交流はもちろんですが、会話だけで
 はなく、全体場でアピールできるなにかがあると印象が強くなります。

そんなとき「指笛」が力を発揮するんです。

日本でも同じですが、だいたい、指をくわえて笛を吹く人なんてほとんどいません。
 ですから、指笛で、小鳥の鳴き真似をしたり、その国の音楽等を演奏すると、とても喜ん
 でもらえるんです。

アメリカ（メイン州）では「ダニーボーイ」「アメージング・グレイス」を、韓国（済
 州市 平澤市）では「サランヘヨ」（愛しています）「荒城の月」等を演奏しました。いずれも

大喝采を受けました。

演奏後、「どうやって音を出すの?」「指笛の吹き方を教えて!」と尋ねられることも少なくありませんでした。

北欧4カ国を訪れた時にはスウェーデンからフィンランドまでは、船で移動しました。

2,800人も乗れる大型豪華客船(シリヤライン)ではいろいろな施設・設備が整っており、「カラオケ」のコーナーもありました。



世界中から集まった人たちが、自分たちの国の歌を歌っていました。

私が「北国の春」を指笛演奏したときには、賑やかだった会場がシーンとなり、その後スタンディングオベーション(観客総立ちの拍手大喝采)を受けました。

海外では、ストリートミュージシャンがたくさんいます。

私もニューヨークや、ニューオリンズ、フランスのモンサンミッシェルの近くの街、中国の北京、台湾の花蓮、などでストリートミュージシャンとして演奏しました。

ニューオリンズやスイスのモンブランの近くの街では、地元のストリートミュージシャンと仲良くなって、一緒に演奏することもありました。



よほせり。ホ」ま」奏遊多移「目の録取」(モス(スイス)モンブランが見える街で)

○レクリエーション活動等、いろいろな場での演奏

私は現在、青森県（顧問）・青森市（会長）レクリエーション協会に所属しており、青森中央短期大学、青森県立保健大学で非常勤講師をしています。小さな子どもから大学生、高齢者まで、たくさんの人々を対象に活動を続けています。

ゲーム、ソング、ダンス、クラフト、ニュースポーツ等いろいろなイベントや、挨拶の時に、その季節にちなんだ曲などを指笛演奏しています。アンコールがかかったりして、雰囲気をもたせようとするのに役に立っているようです。

現役の頃、小学校の校長を3校、8年間やりましたが、毎年、入学式の式辞では「おめでとうの祝意を込めて指笛でウグイスの鳴き真似」を。卒業式の式辞では、大きくなってからも自分の故郷を大切にしてほしいという思いを込めて指笛で「ふるさと」の曲を演奏しました。

退職してから12年間ぐらい、「極楽湯」という温泉で毎月1回、30分の「指笛コンサート」を続けています。指笛のおかげでたまに、教え子や何年間も会っていなかった知り合いと再会したりしています。

極楽湯では自分の指笛のCDも販売させてもらっています。

また、いろいろな楽器の人たちやジャンルの違う人たちとのコラボレーションも楽しんでいます。



いつも、ステージで演奏する前には、1つの曲を最低1,000回は吹き込み、聴く人の心に響くような演奏ができるように心がけています。

先生の出逢いと指導の想い

杉田 隆則

先生の出逢いは、15歳のレッスンと云う事になります。

先生も私も中野区(東京都)で、一度その頃、中野区公会堂が
出来て、その折落に、先生が指導をやった訳です。

母がそのライブを見て、私はその曲を「2」と聞かされた
訳ですが、次の日先生の家へ行った事を覚えています。指導の
「音楽」という話に興味がありました。たまたまその時美都子先生も
居たので、(付いて来たのは)先生が二人のライブをどこで聞かされた
出来、今考えてみても大変ラッキーな出逢いでした。直ぐ教壇に上る
事になり、週二回のレッスンが始まりました。(しかし、半単位の間、
全音階が出る、諦めて、たいてい音が出る様になりました。習いごと
で教えて頂いたのは「指導音楽」だけです。

先生夫妻がクリスマスと分かったのは、大分後になってからでた
が、今でもそれを覚えている様々と思えます。練習の
途中でのお茶の折下を(向いて黙禱をしながらお茶を頂くのです
勿論、私も真似してました。あの頃の我が家には大分雰囲気か
かっていた。でもそれがとても善感だったので練習が楽しみと云う感じで
中野区公会堂が過ぎに行きました。翻って、去年の4月「肺炎」で
一週間程入院したのが、それ迄は、ほぼ毎日「有酸素指導
など、近頃の練習していたのが、予後の状態が良くなった
今は、おーっと休んでいます。

教団の教会に通い始めました。少ない知識ながらもイエス・キリストとの出会いを思い、傲慢な自分に必要と考えて受洗しました。

コロナ禍の昨年6月より、社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団いずみの園で介護支援専門員を拝命し慣れない業務をしています。

クリスチャンであることと、自分がパフォーマンスしながら前に出る事との自己矛盾を感じる場合があります。指笛は自分本位になりやすいという傾向を感じるからです。それは音楽や舞台での致命傷となりかねないものです。人前で堂々と演奏することと自分の誇示とは似ているようで非なるものだと感じます。そういう意味では以前の自分を恥じています。それでも、広報が必要な時もあります。そのあたりも田村先生とお話したかったです。指笛を天からの授かりものと信じ、自分の生涯をまっとうするためには、堂々と指笛を世に宣言し誇示する事が、生きるために必要不可欠だったのだらうと思います。

指笛を通して神の働きを見渡せない時には、虚しい自己実現の曲芸となり、単にマイペースな人としておざなりの拍手に埋もれてしまうことでしょう。それも趣味としては自由で良いことですが、田村先生の残したかったものとは違うような気がしてならないのです。自己実現の向こうには、自分の生き様を垣間見られる事を肝に命じて、指笛と田村先生の事を思い、続けて行ければと思っています。

音楽には、洋の東西問わず叫びと祈りがこめられる事が多いのです。楽しみの中に必要な時に応じて、でも良いので、指笛演奏に、全地への叫びと祈りがこめられますように。この祈りをイエス・キリストの御名を通して捧げます。僕もアーメンだから。

音楽には、洋の東西問わず叫びと祈りがこめられる事が多いのです。楽しみの中に必要な時に応じて、でも良いので、指笛演奏に、全地への叫びと祈りがこめられますように。この祈りをイエス・キリストの御名を通して捧げます。僕もアーメンだから。

音楽には、洋の東西問わず叫びと祈りがこめられる事が多いのです。楽しみの中に必要な時に応じて、でも良いので、指笛演奏に、全地への叫びと祈りがこめられますように。この祈りをイエス・キリストの御名を通して捧げます。僕もアーメンだから。

私と指笛

この度、指笛通信を担当する事となった松本さんから、突然の手紙連絡を頂き、指笛で田村大三先生との出会いについて原稿をと依頼され、近頃すっかり筆不精となっている私ですので困惑しました。

大三先生との出会いと言えるようなものはない私ですので、指笛と出会えることになった私について申します。

私の生まれは、今住んでいるところと同じ長野県佐久市ですが、定年で退職するまでは、東京消防庁に勤務しておりました。高校は、小諸市にある工業高校で、島崎藤村の詩【千曲川旅情の詩】が刻まれた石碑がある懐古園にも通学途上しょっちゅう行っていましたので、詩の中にある「歌悲し佐久の草笛」とあるのも知っていましたが、その草笛とはどういうものかは、吹いている人も笛の音も見た事も、聞いた事も無く全く知りませんでした。

両親から今後の面倒を見てくれと頼まれた事もあり退職後実家に戻りましたが、小さな農業や両親の世話や、現在住んでいる自宅新築の設計や施工などに加え、自分自身の大腸がんの手術などもあってあわただしく数年が過ぎてしまいました。そんな時、ふとしたきっかけで懐古園草笛会という草笛の会に誘われ、草笛音楽を初めて知りました。懐古園には横山祖道師といわれていた、既に故人であった有名な草笛奏者が永いこと居たそうですが、私の高校生当時には未だ来て居なかったということで草笛との出会いも無かったのです。

懐古園草笛会の指導者であった高橋美千代という方が、田村大三先生と深い繋がりがあったという事から、草笛会の仲間と一緒に連れて行かれた新宿の安田生命ビルでの指笛コンサートで指笛音楽の素晴らしさに出会う事ができました。そして指笛の演奏は指を鍵型にして吹奏する事も知りました。実は、私は他の人が指笛で音楽演奏をするのを見た事は有りませんでした。どういう訳か私も自己流で、指で短い曲を吹く事は出来たものですから、職場での宴会のときに（オイ、片井、指でやれ、）などと云われる事も有りました。当時の私の指笛は、左右の人差し指中指の四本でやっていたものですから長くは吹けず、精精仲間の歌の一番分位の伴奏をする程度で、吹く姿も、仲間だから良いものの他人の前で見せられる様な物でなく、ならば、更に良くしようとする努力や工夫をする意欲も特に無く、今行われている指を鍵形に曲げてすれば等ということには考えが及びませんでした。

それが、コンサートでの演奏法を見て、あー、そうなのか、これなんだ、と大袈裟に云えば雷に打たれた感じがしました。

これは、正しくしっかり教えてもらわなければという気持ちになりました。

田村大三先生との出会い ～感謝をこめて～

それはもう随分と昔の事。

仕事の都合で外地から引き揚げてきた私は、あまりにも落差の大きな生活、文化の違いに極度のカルチャーショックを受け落ち込んでいた。

思い出すのは彼の地のことばかり。所謂痴呆状態の日々。

ある日のこと、何気なく読んでいた夕刊。そこにはなんと口に指をいれて、指笛なる音楽を奏でる人の記事が。思わず、しらず夢中で記事を読んでいた。

これ面白そう、自分もできるかもしれない。とにかくやってみよう。持ち前の楽思考で行動。新聞社に連絡して電話を調べた私はすぐに、当時中野駅近くに住んでおられた田村先生に入門すべく電話をしたうえで門を叩いた。

ところが、なんと先生曰く「僕はねえ、今弟子はとっていないんだよ。」小生は目をシロクロ。そこをなんとか、と言ったかどうかは定かではない。しかし、人生面白いもので、隣に座っていた奥さまの羽黒美津子先生がこうおっしゃった。「とにかく音が出るのが大事だから、そこを目指してやってみたら。」もう“天の声”で、大先生から指の加え方などを教わり、挙句大先生のアゴとかこめかみあたりまで触らせてもらうことを許され、「音を出すとこうなるんだ」ということを教わった。

「音が鳴ったらまたいらっしやい」と奥さまのその一言に喜び勇んで、中野駅まで夜道を指をくわえてスースーしながら帰ったあの日、あの夜。

ところが、である。世の中そう簡単ではない。吹けども吹けども空気の漏れる音ばかり。あの夜大先生が模範演奏してくれた音はどこだ。風呂場で指を洗いながらスースー。子供たちは家内に「ねえ、お父さんなにしているの?」という始末。

ある日、その後奥さまからご連絡をいただいた。当時横浜に住んでいたが田村先生ご一家が鎌倉のレストランで演奏会を開くから来てみないかというお誘い。

ところが、である。かなり高級なお店で、家族4人の食事代??ムリムリ。そこでデザートだけでも食べにきたら?ということになった。

さて、当日家族と出かけた。恵さんのピアノ、羽黒さんのソプラノ、大先生の指笛、初めて聞く素晴らしい演奏にもう家族はびっくり仰天、口もきけない。

ところが、である。次の瞬間思いもかけないことが起こった。なんと羽黒先生が小生の事を新しいお弟子さん、とお客様に紹介したまではすんなり耳に入ったが、いきなり「蝶々」を吹いてみてはどうですか、とおっしゃったのだ。こういうのを世間では晴天の霹靂という。

デザートどころではない。何度もお断りをしたが、とうとう吹くことに。

その恥ずかしさ。聞くに堪えない音、雑音をよく先生はじめ、お客様もがまんしてくれたものだ、と今でも冷や汗とともに思い出す。

帰り道、子供たちは家内に「お父さん、あれを練習していたの?」と聞いていた。

あれからもう何年経ったのだろう。手ほどきを受けた指笛をしっかりと受け継いでいるのか自問する日々。

田村先生、羽黒先生、いつまでやっても足元に及ばない、不肖の弟子をお許しください。これからも日々の精進を怠りません。

先生はじめ、沢山の方々のお世話になって今の自分が、そして今の指笛があるのだと感謝しつつ。

2021年8月

田村大三先生との出会いと指笛への想い

中澤 忍

60年くらい前のこと、「心の家」という社会教育団体との出会いに恵まれました。

それは後藤静香（せいこう）の主催する敬信愛を根っ子にした精神運動でした。

大三先生は、その後藤から「君は指笛で生きていくんだよ」と言われたという後藤の愛弟子です。

大三先生は若者たちの愛称「心の家たんぼぼ会」の合宿などによく参加してくださり、指笛や「楽しい話を聴かせてくれました。

50年余り前、私たちが結婚する時、夫人の歌手である黒羽美都子先生とともにお祝いに駆けつけてくださいました。

お祝いの会場に指笛とソプラノが響き渡りました。感激でした。

恥ずかしながら曲目が思い出せません。

大三先生は「たんぼぼ会」で歌の指導をしてくださいました。

「よい事ばかり考えよう」という明るく楽しい曲を皆でよく合唱したものでした。

指笛については、大三先生が吹き方を教えてくださいましたが、全く音が出ないので、しばらくは聞く方でした。

10年ほど前に指部タコができる類熱心に練習したら、やっと音が出て、演奏できるようになりました。が、人様に聞いていただけるほど庭なっておりません。

大三先生が今いられたら、コロナ禍の暗く嫌な世の中を明るく照らしてくれるに違いありません。

大三先生との出会い

片山 陽一

そもそものきっかけは山梨の新聞記者だった竹内秀秋さんから「練馬までいけないのでチケットを使ってくれないか」と2枚のチケットが送られてきた。第70回の発表会だったと思うが、それを聴きに行ったのが指笛との初めての出会いだった。

その時の感動は今でも忘れてはいない。どうしても身に付けたかった。たまたま大三先生のご自宅前のスーパーが昔からの知り合いだったので、先生のところの電話番号を教えてらい、早速電話をいれた。

すると静海先生が電話に出られて「まだ音が出ていない人は斎藤さんが教室をやっているのその後 行ってください。」と言われ、MMC を紹介された。MMC で修行してそれから大三先生の処に伺うようになった。

先生の処に行くたびにパーティーで食事アルコールも出た。一階にはグランドピアノがあり、そこで順番に伴奏したが、私は待っている間、地下にある練習場で音出し練習をしてからピアノに合わせての演奏となるのが常だった。

大三先生に直接の指導は受けなかったが、いつもにこやかに聴いて頂いた。お亡くなりになってから、集まりがあったが、先生の形見を何かもらってと言われて、私が最後に戴いたのが、先生が履いていらっしゃった靴がぴったりで静海先生から「これは良い靴ですよ」と言われたので、その後の発表会用に履かせていただき、今もその靴は演奏会で活躍している。その靴を履くと大三先生に側で聴いて頂いているような気分になれる不思議さがある。

大三先生の60歳頃に演奏されたCDを目標に日々精進しているところである。音楽は奥が深いし、難しいけれどそれだけにやり甲斐がある。

指笛を覚えたことで私の人生が本当に楽しいものになってきた。やるからには演奏技術を高め魅力ある演奏者を目指したいと思う。少しでも大三先生に近づき、後輩を育てられるように努力したいと思う今日この頃である。

有賀 猛

田村大三先生、および指笛との出会いはすべて、マウスミュージッククラブ主催者だった齋藤秀元先生との出会いに始まる。

『練馬区報の区民広場』に掲載されたマウスミュージッククラブ会員募集に応募し、指笛と出会った。それから数年後の2010年4月24日に指笛楽友会の「25の会」を紹介され、楽友会同期の中澤忍さんと一緒に参加した。

「25の会」は田村邸の居間で行われていた。その日が私にとって先生と直にお会いした初めての出会いだった。先生はご高齢で自室にて療養中でした。会員が「25の会」の指笛を練習しているうちに、先生の様態が急変し、天に召される事となった。私にとっては出会いと別れが一気に起こった劇的な日となった。

2021年7月30日

垣花 讓二

私は2005年7月に『指笛王国おきなわ』を建国し、その年の暮れに指笛楽友会の会員だった吉田重雄（故人）さんに案内されて田村大三先生のお宅を訪問しました。先生は当時92歳で車いすの生活でした。先生は私がおきなわからきたことを知り、笑顔で私の両手を握り、激励してくださいました。「頑張ります」と約束しました。その約束が私の活動の原泉になっています。

その後、娘のメミさんから「私が高校生の頃だったと思います。父と一緒に沖縄本島、宮古島、石垣島を訪れて指笛ファミリーコンサートをしました。」と聞きました。1972年の沖縄の「日本復帰」直後の頃だったようです。田村先生と沖縄の深い縁を感じました。

先生との思い出を大切に、精進していきたいです。



終わりに


お手紙を拝見させていただき、皆様が先生の暖かな人柄と指笛の偉大さに惹かれて今に至っているのだなあと改めて感じました。

ご応募頂いた方の中で掲載出来なかった方については、申し訳ございません。また、夏号がこの時期になってしまったこと、大変申し訳ありませんでした。

心よりお詫び申し上げます。

コンサートにつきましては、出演される皆様が開催に向けて準備や練習に励んでおられます。楽しみにご来場下さいませ。

担当 松本 京子



コンサートのお知らせ


『田村大三 指笛音楽 第88周年記念 指笛コンサート』

日時：2022年 9月25日（日）

開場 12：00 開演 13：00

場所：練馬文化センター（小ホール）

※ コンサートは無料となっております。
コロナ対策のうえ、ぜひご来場下さい。



杉田隆則様 齋藤景子様

在りし日のお姿を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。